運 用 報 告 書（ 全体版 ）

スーパーファンド・ジャパン
サブファンド・グリーンA、サブファンド・グリーンB、サブファンド・グリーンC

ケイマン籍 オープンエンド契約型 外国投資信託（円建て、米ドル建て）

作成対象期間（第12期）: 自 2020年１月１日　　至 2020年12月31日

～　受益者の皆様へ　～

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、当サブファンドの第12期の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ファンド形態	ケイマン籍 オープンエンド契約型外国投資信託（円建て、米ドル建て）	
信託期間	信託設定日は2009年６月５日、償還日は設定日から150年後	
運用方針	マスターファンド投資顧問会社が随時選定するテクニカル分析ソフトウェアを使用したトレーディング・シグナルに基づいて投資活動を行います。 マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドは、投資機会を活かし、最新のトレーディング戦略を利用する予定であるため、将来の運用について、現時点で既定されたものはなく、またいかなる制限を受けるものでもありません。マスターファンド投資顧問会社は、アンダーライング・マスターファンドが上場先物及び店頭デリバティブ（外国為替取引を含みます。）の取引においてレバレッジを用いることにより高い収益が見込めると判断したときに、レバレッジを利用することができます。	
主要投資対象	当サブファンド	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPC及びスーパーファンド・グリーンSPC
	マスターファンド	スーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPC、スーパーファンド・グリーン・マスター及び現金
	アンダーライング・マスターファンド	世界各国の取引所に上場されている様々な先物取引（株式指数、債券、通貨、金利、金属、穀物、農作物、エネルギー）への分散投資、及び金先物
組入制限	当ファンドの３つのサブファンド「グリーンA」、「グリーンB」及び「グリーンC」の資産は管理会社により運用され、管理会社は各サブファンドの円・クラス及び米ドル・クラス資産のすべてをスーパーファンド・グリーンSPCのシェア（株式）に、各サブファンドのゴールド円・クラス及びゴールド米ドル・クラス資産のすべてをスーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCのシェア（株式）に投資します。	
分配方針	現段階では分配を行う予定はありません。但し、管理会社はその裁量で分配を決定する権利を留保しています。	

（注１）本書中における米ドル及びユーロの円貨換算は、別段の表示のない限り、2021年５月30日現在の株式会社三菱UFJ銀行の対顧客電信売買相場の仲値（１米ドル＝109.76円、１ユーロ＝133.74円）によります。
（注２）円貨への換算は、本書において該当する各数値につき、所定の換算率で単純計算の上、必要に応じて四捨五入しています。したがって、本書中の同一情報につき異なった数値で円貨表示がなされている場合があります。

【管理会社】

スーパーファンド・ジャパン・トレーディング（ケイマン）リミテッド

【代行協会員】

スーパーファンド・ジャパン株式会社

目　次

１． 資産の運用の経過‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P. 1

２． 運用状況の推移‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P. 8

３． ファンドの経理状況‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P. 18

４． 費用の明細‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P. 55

５． 当期末における純資産額計算書‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P. 56

６． 投資の対象とする有価証券及びその他の資産‥‥‥‥ P. 57

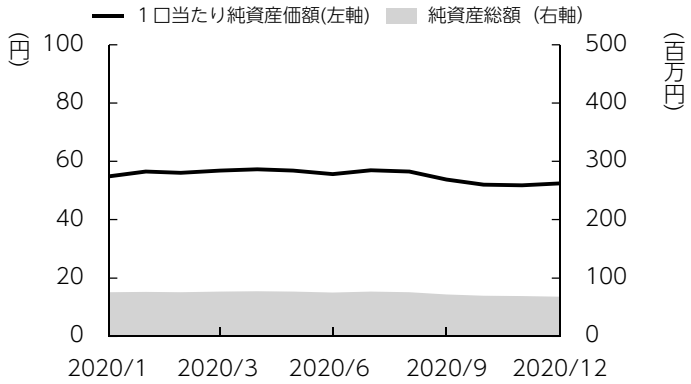
７． 投資の対象とする不動産、金銭債権及び手形‥‥‥‥ P. 57

８． お知らせ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ P. 57

１．資産の運用の経過

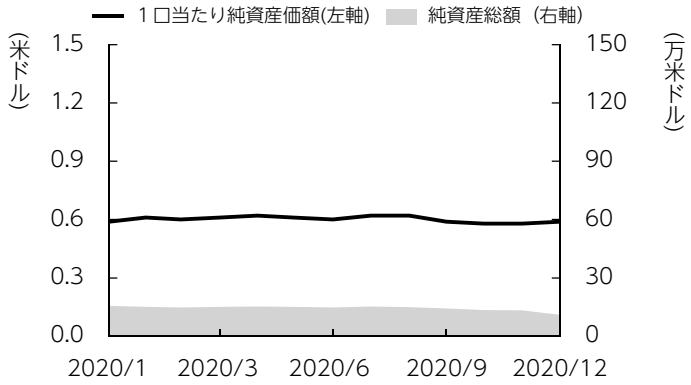
■当期の１口当たり純資産価額等の推移について（2020年１月１日～2020年12月31日）

サブファンド・グリーンA　円・クラス



第　11　期　末　の １口当たり純資産価額	54.87円
第　12　期　末　の １口当たり純資産価額	52.48円 （分配金０円）
騰　　落　　率	△4.36%

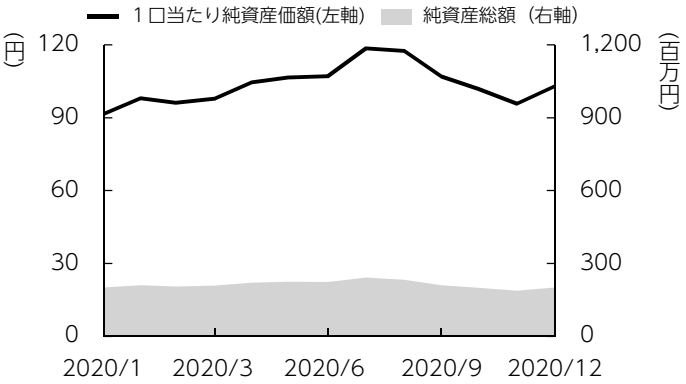
サブファンド・グリーンA　米ドル・クラス



第　11　期　末　の １口当たり純資産価額	0.59米ドル
第　12　期　末　の １口当たり純資産価額	0.59米ドル （分配金０米ドル）
騰　　落　　率	＋0.00%

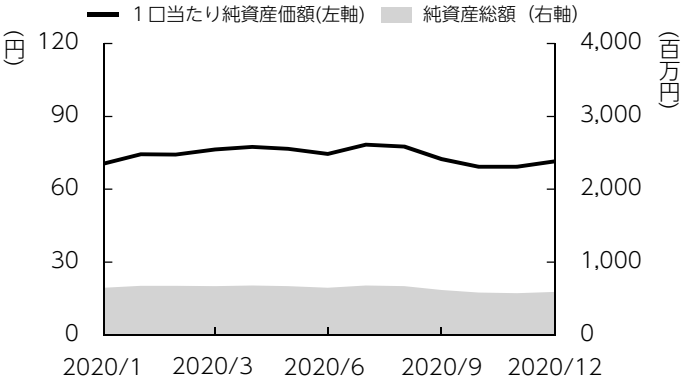
（注１）当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では１口当たり純資産価額のみを記載しています。
（注２）１口当たり純資産価額は、第11期末の１口当たり純資産価額を起点として計算しています。
（注３）サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注４）サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

サブファンド・グリーンA　ゴールド円・クラス



第11期末の１口当たり純資産価額	91.60円
第12期末の１口当たり純資産価額	102.98円 （分配金０円）
騰落率	＋12.42%

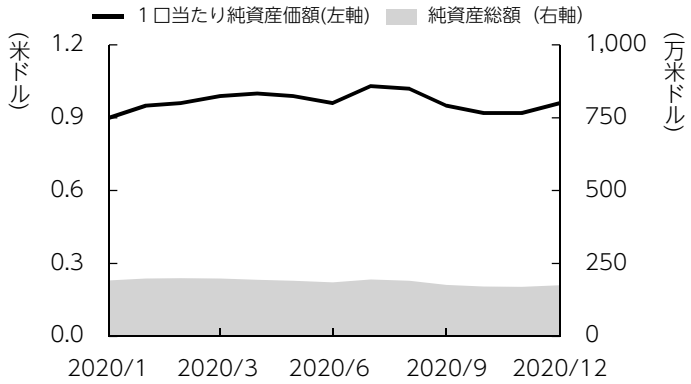
サブファンド・グリーンB　円・クラス



第11期末の１口当たり純資産価額	70.59円
第12期末の１口当たり純資産価額	71.56円 （分配金０円）
騰落率	＋1.37%

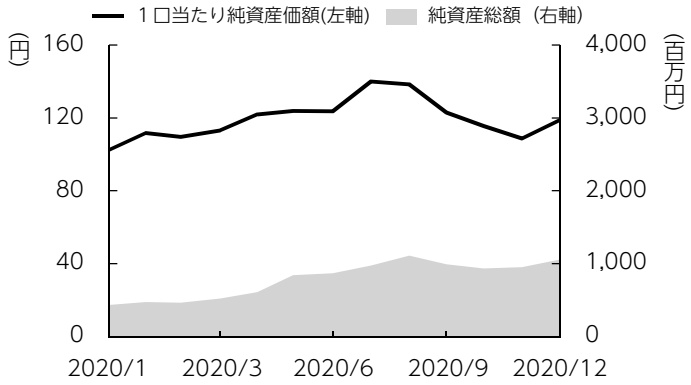
（注１）当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では１口当たり純資産価額のみを記載しています。
（注２）１口当たり純資産価額は、第11期末の１口当たり純資産価額を起点として計算しています。
（注３）サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注４）サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

サブファンド・グリーンB　米ドル・クラス



第　11　期　末　の １口当たり純資産価額	0.90米ドル
第　12　期　末　の １口当たり純資産価額	0.96米ドル （分配金０米ドル）
騰　　落　　率	＋6.67%

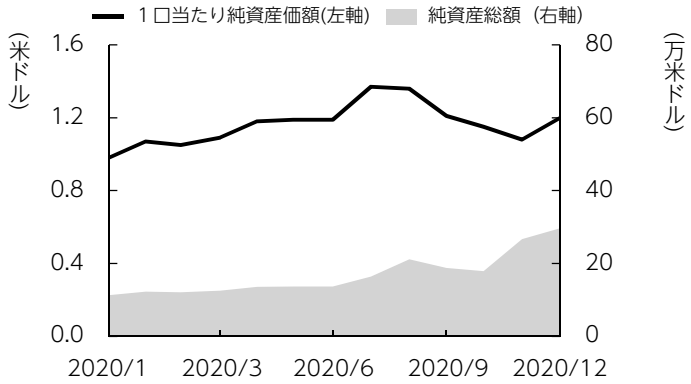
サブファンド・グリーンB　ゴールド円・クラス



第　11　期　末　の １口当たり純資産価額	102.38円
第　12　期　末　の １口当たり純資産価額	118.95円 （分配金０円）
騰　　落　　率	＋16.18%

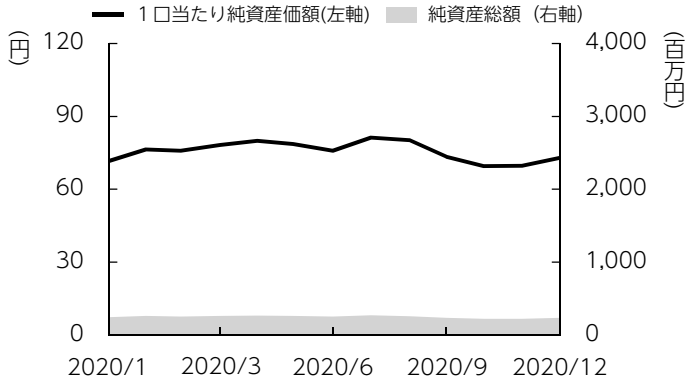
（注１）当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では１口当たり純資産価額のみを記載しています。
（注２）１口当たり純資産価額は、第11期末の１口当たり純資産価額を起点として計算しています。
（注３）サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注４）サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

サブファンド・グリーンB　ゴールド米ドル・クラス



第11期末の１口当たり純資産価額	0.98米ドル
第12期末の１口当たり純資産価額	1.20米ドル （分配金０米ドル）
騰落率	＋22.45%

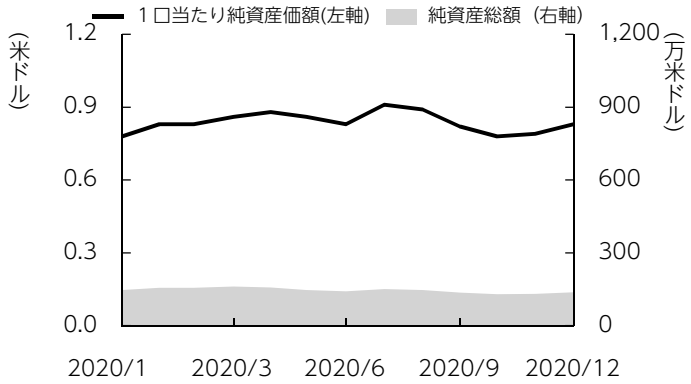
サブファンド・グリーンC　円・クラス



第11期末の１口当たり純資産価額	71.63円
第12期末の１口当たり純資産価額	72.97円 （分配金０円）
騰落率	＋1.87%

（注１）当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では１口当たり純資産価額のみを記載しています。
（注２）１口当たり純資産価額は、第11期末の１口当たり純資産価額を起点として計算しています。
（注３）サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注４）サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

サブファンド・グリーンC　米ドル・クラス



第11期末の１口当たり純資産価額	0.78米ドル
第12期末の１口当たり純資産価額	0.83米ドル （分配金０米ドル）
騰落率	＋6.41%

（注１）当サブファンドについては分配金の分配を行っていないため、上表では１口当たり純資産価額のみを記載しています。
（注２）１口当たり純資産価額は、第11期末の１口当たり純資産価額を起点として計算しています。
（注３）サブファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
（注４）サブファンドにベンチマークは設定されておりません。

■１口当たり純資産価額の主な変動要因

【円・クラス、米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における市場の変動率の上昇により、当サブファンドが採用するトレンドフォロー戦略による取引システムが、様々な指数の上昇・下降トレンドに追随することでキャピタルゲインを確保します。一方、上昇又は下降トレンドに追随した後、市場価格のトレンドが変換することによりキャピタルロスが生まれます。円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

【ゴールド円・クラス、ゴールド米ドル・クラス】

実質的に投資している金融先物市場・商品先物市場における市場の変動率の上昇により、当サブファンドが採用するトレンドフォロー戦略による取引システムが、様々な指数の上昇・下降トレンドに追随することでキャピタルゲインを確保します。一方、上昇又は下降トレンドに追随した後、市場価格のトレンドが変換することによりキャピタルロスが生まれます。加えて、金価格の上昇によりキャピタルゲインが生まれ、下落によりキャピタルロスが生まれます。さらに、円建てクラスは、為替が円安に変動することでキャピタルゲインが生まれ、円高に変動することでキャピタルロスが生まれます。

■投資環境について

2020年は、急速に拡散する新型コロナウイルスの出現によって、現代史上最も激動した年の１つとなりました。このCOVID－19ウイルスは、それまでに知られていたどの呼吸器系ウイルスよりも感染力と致死率が高く、2020年３月には感染拡大を抑えるために企業や集会が閉鎖されました。世界の主要な株価指数や原油価格が暴落し、世界のGDPは大きく低下、そして何百万人もの人々が仕事にあぶれました。しかしながら2020年は、人々、組織、及び金融市場の根強い回復力を証明するものとなりました。政府や中央銀行が個人や企業に必要不可欠な金融支援を行ったことで、経済の回復を待たず金融市場が先行する形でリバウンドしました。年末には、このウイルスに対抗する適切なワクチンが開発され、希望する国民全員にいきわたるよう接種計画が立てられました。

株式市場は一旦は弱気相場に入ったものの、各国の中央銀行が市場を安定させるために迅速かつ広範な行動をとったことで、急速に回復しました。米国の株価指数は、S&P500指数が年間約15%のリターン、NASDAQコンポジット指数は40%を超える驚異的なリターンを記録して、１年を終えました。欧州の株価も回復しましたが、その結果はまちまちで、英国はブレグジットとパンデミックのワンツーパンチを受け、FTSE100指数は13%下落しました。アジア市場は、中国が他の先進国よりも速いペースで正常な状態に戻ることができたため、強い上昇を示しました。

メディアでは株式市場の乱高下に注目が集まっていましたが、債券市場も2008年の大不況以来のボラティリティーの高まりを経験しました。米国では、ソブリン債の安全性と分散投資を求める投資家が国債価格を上昇させ、利回りは歴史的な低水準に達しました。FRBは景気減速を防ぐため、３月初旬に連邦資金金利を1.50%から1.25%に引き下げ、さらに３月中旬にはゼロ金利に近い水準まで引き下げました。一方、欧州では、ECB（欧州中央銀行）が景気回復のために国債を異例の速さで購入したことで、債券市場は活発な動きを見せました。米国の長期国債である30年物国債は10%と米国債の中で最も高いパフォーマンスを示し、欧州ではドイツ連邦債が３%強と欧州債の中で最も高いパフォーマンスを示しました。

2020年は、ほとんどのコモディティにとって強気の時期となりました。というのも、需要の混乱は、各商品が運輸・旅行部門にどのように関わっているかによって大きく左右されたからです。原油の需要が減少したことに加え、市場では大量の供給過剰が発生し、約18年ぶりの安値を記録しました。その後の供給削減により、一時的に上昇しましたが、遅すぎました。アルミは中国の自動車市場の急成長により、銅は電力網や再生可能エネルギーへの投資拡大により、それぞれ上昇しました。金は８月に１オンス2,070米ドルの史上最高値を記録しました。銀は、投資家がより大きなアップサイドを持つ信頼できる投資先を求めたため、年末には45%以上の高いパフォーマンスを記録しました。農産物市場では、パンデミックによる供給懸念や貿易戦争の継続、ドル安などを受けて上昇しました。

■ポートフォリオについて

＜当サブファンド＞

当サブファンドは、マスターファンドへの投資によって当該マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。結果、マスターファンドへの投資比率は、概ね95％以上を維持しました。

＜マスターファンド＞

マスターファンドは、アンダーライング・マスターファンドへの投資によって当該アンダーライング・マスターファンドと同一の投資目的を追求しました。

＜アンダーライング・マスターファンド＞

アンダーライング・マスターファンドは、主に世界各国の取引所に上場されている様々な先物取引等に投資しました。トレンドフォロー戦略を中心としたマネージドフューチャーズ（グリーン戦略）により、下記７つのセクターに分散投資しました。

【株式指数】　【債券】　【通貨】　【金属】　【穀物】　【農作物】　【エネルギー】

当ファンドが採用するマネージドフューチャーズ戦略は、150を超える様々な指数の中長期トレンドに追随するトレンドフォロー戦略を中核とします。2020年においては、年前半は昨年に続いて様々な指数においてトレンドが発生し、好調なパフォーマンスが継続しました。夏場以降複数のマーケットの反動から下落傾向となりましたが、年末にかけ戻り基調となり、一年を通してはプラスで終わることができました。また、金価格も同様に、1,500米ドル台であった年初から、８月には2,000米ドル台を付けましたが、11月後半には1,800米ドル割れとなりました。年末には1,900米ドル前後まで戻り、大きく上昇した一年となり、長期的上昇基調は継続していると考えております。

■今後の運用方針

サブファンド「グリーンA」の受益証券は、当該サブファンドの登録受益権者による決議等を経た上で、2021年１月１日付で償還され、サブファンド「グリーンA」の受益者には償還手続きの過程においてサブファンド「グリーンB」の該当クラスの受益証券が発行されました。また、同日付でサブファンド「グリーンA」は終了し、サブファンド「グリーンB」は、サブファンド「グリーン」へと名称が変更されました。

今後の運用方針については、これまでの投資方針が引き続き採用され、マスターファンドへの投資を通じてアンダーライング・マスターファンドと同一の投資目的を追求する予定です。

■分配金について

当サブファンドには分配金はありません。

２．運用状況の推移

サブファンド・グリーンAのゴールド円・クラス及びサブファンド・グリーンBのゴールド円・クラスは、2017年12月31日までそれぞれ「サブファンドA　円建てクラス」及び「サブファンドB　円建てクラス」として運用されていました。

サブファンド・グリーンBの円・クラス、米ドル・クラス、ゴールド米ドル・クラスは2018年１月１日に運用を開始し、サブファンド・グリーンAの円・クラス、米ドル・クラス及びサブファンド・グリーンCの円・クラス、米ドル・クラスは2018年７月１日に運用を開始したため、当該計算期間以前の計算期間に係る純資産総額、１口当たり純資産価額、及び収益分配金に関する情報は存在しません。

当サブファンドの収益率は以下のとおりです。

■サブファンドA　円建てクラス

	自2011年 １月１日 至2011年 12月31日	自2012年 １月１日 至2012年 12月31日	自2013年 １月１日 至2013年 12月31日	自2014年 １月１日 至2014年 12月31日	自2015年 １月１日 至2015年 12月31日	自2016年 １月１日 至2016年 12月31日	自2017年 １月１日 至2017年 12月31日
当初シリーズ	－16.46%	4.66%	－10.53%	16.13%	－16.00%	－15.04%	18.42%
第２シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第３シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第４シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第５シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第６シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第７シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第８シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第９シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第10シリーズ	－1.86%	－	－	－	－	－	－
第11シリーズ	7.84%	－	－	－	－	－	－
第12シリーズ	－3.89%	－	－	－	－	－	－
第13シリーズ	－7.39%	－	－	－	－	－	－
第14シリーズ	－1.72%	－	－	－	－	－	－
第15シリーズ	－9.55%	－	－	－	－	－	－
第16シリーズ	－6.23%	－	－	－	－	－	－
第17シリーズ	－16.77%	－3.03%	－	－	－	－	－
第18シリーズ	－	－11.48%	－	－	－	－	－
第19シリーズ	－	－9.53%	－	－	－	－	－
第20シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第21シリーズ	－	－5.16%	－	－	－	－	－
第22シリーズ	－	－5.22%	－	－	－	－	－
第23シリーズ	－	－8.65%	－	－	－	－	－
第24シリーズ	－	5.41%	－10.81%	－	－	－	－
第25シリーズ	－	－	－17.83%	－	－	－	－
第26シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第27シリーズ	－	－	－14.76%	－	－	－	－
第28シリーズ	－	－	2.36%	－	－	－	－
第29シリーズ	－	－	－3.21%	－	－	－	－
第30シリーズ	－	－	－	－	－	－	－

第31シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第32シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第33シリーズ	－	－	－	16.07%	－	－	－
第34シリーズ	－	－	－	21.55%	－	－	－
第35シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第36シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第37シリーズ	－	－	－	10.60%	－	－	－
第38シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第39シリーズ	－	－	－	－	－18.35%	－	－
第40シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第41シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第42シリーズ	－	－	－	－	－6.7%	－	－

■サブファンドB　円建てクラス

	自2011年 １月１日 至2011年 12月31日	自2012年 １月１日 至2012年 12月31日	自2013年 １月１日 至2013年 12月31日	自2014年 １月１日 至2014年 12月31日	自2015年 １月１日 至2015年 12月31日	自2016年 １月１日 至2016年 12月31日	自2017年 １月１日 至2017年 12月31日
当初シリーズ	－22.85%	0.72%	－6.25%	23.10%	－15.52%	－18.82%	29.03%
第２シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第３シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第４シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第５シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第６シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第７シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第８シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第９シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第10シリーズ	－8.67%	－	－	－	－	－	－
第11シリーズ	2.20%	－	－	－	－	－	－
第12シリーズ	－11.47%	－	－	－	－	－	－
第13シリーズ	－13.86%	－	－	－	－	－	－
第14シリーズ	－7.54%	－	－	－	－	－	－
第15シリーズ	－17.26%	－	－	－	－	－	－
第16シリーズ	－13.30%	－	－	－	－	－	－
第17シリーズ	－18.59%	－9.42%	－	－	－	－	－
第18シリーズ	－	－17.37%	－	－	－	－	－
第19シリーズ	－	－13.13%	－	－	－	－	－
第20シリーズ	－	－16.57%	－	－	－	－	－
第21シリーズ	－	－10.00%	－	－	－	－	－
第22シリーズ	－	－11.16%	－	－	－	－	－
第23シリーズ	－	－12.48%	－	－	－	－	－
第24シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第25シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第26シリーズ	－	－	－18.30%	－	－	－	－
第27シリーズ	－	－	－16.37%	－	－	－	－
第28シリーズ	－	－	1.97%	－	－	－	－
第29シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第30シリーズ	－	－	2.41%	－	－	－	－
第31シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第32シリーズ	－	－	－	－	－	－	－

第33シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第34シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第35シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第36シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第37シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第38シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第39シリーズ	－	－	－	－	－18.45%	－	－
第40シリーズ	－	－	－	－	－17.34%	－	－
第41シリーズ	－	－	－	－	－17.06%	－	－
第42シリーズ	－	－	－	－	－3.88%	－	－

（注１）各シリーズの収益率の推移は、各運用開始日からの収益率の推移を表わしています。各シリーズの運用開始日はそれぞれ以下のとおりです。

シリーズ	当初シリーズ	第２シリーズ	第３シリーズ	第４シリーズ	第５シリーズ
運用開始日	2009年８月３日	2009年10月１日	2009年12月１日	2010年２月１日	2010年４月１日
シリーズ	第６シリーズ	第７シリーズ	第８シリーズ	第９シリーズ	第10シリーズ
運用開始日	2010年６月１日	2010年７月１日	2010年８月１日	2010年10月１日	2010年12月１日
シリーズ	第11シリーズ	第12シリーズ	第13シリーズ	第14シリーズ	第15シリーズ
運用開始日	2011年２月１日	2011年４月１日	2011年６月１日	2011年７月１日	2011年８月１日
シリーズ	第16シリーズ	第17シリーズ	第18シリーズ	第19シリーズ	第20シリーズ
運用開始日	2011年10月１日	2011年12月１日	2012年２月１日	2012年４月１日	2012年６月１日
シリーズ	第21シリーズ	第22シリーズ	第23シリーズ	第24シリーズ	第25シリーズ
運用開始日	2012年７月１日	2012年８月１日	2012年10月１日	2012年12月１日	2013年２月１日
シリーズ	第26シリーズ	第27シリーズ	第28シリーズ	第29シリーズ	第30シリーズ
運用開始日	2013年４月１日	2013年６月１日	2013年７月１日	2013年８月１日	2013年10月１日
シリーズ	第31シリーズ	第32シリーズ	第33シリーズ	第34シリーズ	第35シリーズ
運用開始日	2013年12月１日	2014年２月１日	2014年４月１日	2014年６月１日	2014年７月１日
シリーズ	第36シリーズ	第37シリーズ	第38シリーズ	第39シリーズ	第40シリーズ
運用開始日	2014年８月１日	2014年10月１日	2014年12月１日	2015年２月１日	2015年４月１日
シリーズ	第41シリーズ	第42シリーズ			
運用開始日	2015年６月１日	2015年７月１日			

（注２）第２シリーズから第９シリーズまでの各シリーズは、2010年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注３）第10シリーズから第16シリーズまでの各シリーズは、2011年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注４）第17シリーズから第23シリーズまでの各シリーズは、2012年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注５）第24シリーズから第30シリーズまでの各シリーズは、2013年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注６）第31シリーズから第37シリーズまでの各シリーズは、2014年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注７）第38シリーズから第42シリーズまでの各シリーズは、2015年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注８）第43シリーズから第60シリーズまでの各シリーズは発行されなかったため、上表においても省略されています。

■サブファンド・グリーンＡ

	収益率		
	円・クラス	米ドル・クラス	ゴールド円・クラス
自2018年１月１日 至2018年12月31日	－23.19%	－20.55%	－23.37%
自2019年１月１日 至2019年12月31日	＋10.18%	＋11.32%	＋27.10%
自2020年１月１日 至2020年12月31日	－4.36%	＋0.00%	＋12.42%

■サブファンド・グリーンＢ

	収益率			
	円・クラス	米ドル・クラス	ゴールド円・クラス	ゴールド米ドル・クラス
自2018年１月１日 至2018年12月31日	－25.95%	－13.95%	－27.99%	－26.32%
自2019年１月１日 至2019年12月31日	＋21.06%	＋21.62%	＋37.57%	＋40.00%
自2020年１月１日 至2020年12月31日	＋1.37%	＋6.67%	＋16.18%	＋22.45%

■サブファンド・グリーンＣ

	収益率	
	円・クラス	米ドル・クラス
自2018年１月１日 至2018年12月31日	－28.98%	－26.61%
自2019年１月１日 至2019年12月31日	＋26.91%	＋27.87%
自2020年１月１日 至2020年12月31日	＋1.87%	＋6.41%

サブファンドA　円建てクラス、サブファンドB　円建てクラスの純資産総額の推移は以下のとおりです。単位は円です。

■サブファンドA　円建てクラス

	2011年 12月31日	2012年 12月31日	2013年 12月31日	2014年 12月31日	2015年 12月31日	2016年 12月31日	2017年 12月31日
当初シリーズ	370,570,070	412,725,035	348,844,103	368,465,583	295,904,022	246,279,593	243,292,020
第２シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第３シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第４シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第５シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第６シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第７シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第８シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第９シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第10シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第11シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第12シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第13シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第14シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第15シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第16シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第17シリーズ	9,629,711	－	－	－	－	－	－
第18シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第19シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第20シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第21シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第22シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第23シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第24シリーズ	－	3,973,957	－	－	－	－	－
第25シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第26シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第27シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第28シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第29シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第30シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第31シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第32シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第33シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第34シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第35シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第36シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第37シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第38シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第39シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第40シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第41シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第42シリーズ	－	－	－	－	－	－	－

■サブファンドB　円建てクラス

	2011年 12月31日	2012年 12月31日	2013年 12月31日	2014年 12月31日	2015年 12月31日	2016年 12月31日	2017年 12月31日
当初シリーズ	556,834,485	561,302,766	439,984,178	444,745,667	307,101,495	248,681,504	285,519,878
第２シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第３シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第４シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第５シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第６シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第７シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第８シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第９シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第10シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第11シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第12シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第13シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第14シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第15シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第16シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第17シリーズ	11,837,014	－	－	－	－	－	－
第18シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第19シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第20シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第21シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第22シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第23シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第24シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第25シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第26シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第27シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第28シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第29シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第30シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第31シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第32シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第33シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第34シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第35シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第36シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第37シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第38シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第39シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第40シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第41シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第42シリーズ	－	－	－	－	－	－	－

（注１）第２シリーズから第９シリーズまでの各シリーズは、2010年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注２）第10シリーズから第16シリーズまでの各シリーズは、2011年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注３）第17シリーズから第23シリーズまでの各シリーズは、2012年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注４）第24シリーズから第30シリーズまでの各シリーズは、2013年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注５）第31シリーズから第37シリーズまでの各シリーズは、2014年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注６）第38シリーズから第42シリーズまでの各シリーズは、2015年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注７）第43シリーズから第60シリーズまでの各シリーズは発行されなかったため、上表においても省略されています。

サブファンドA　円建てクラス、サブファンドB　円建てクラスの１口当たり純資産価額の推移は以下のとおりです。単位は円です。

■サブファンドA　円建てクラス

シリーズ	2011年 12月31日	2012年 12月31日	2013年 12月31日	2014年 12月31日	2015年 12月31日	2016年 12月31日	2017年 12月31日
当初シリーズ	102.34	107.11	95.83	111.29	93.48	79.42	94.05
第２シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第３シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第４シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第５シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第６シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第７シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第８シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第９シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第10シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第11シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第12シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第13シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第14シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第15シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第16シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第17シリーズ	83.23	－	－	－	－	－	－
第18シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第19シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第20シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第21シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第22シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第23シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第24シリーズ	－	105.41	－	－	－	－	－
第25シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第26シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第27シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第28シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第29シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第30シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第31シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第32シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第33シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第34シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第35シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第36シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第37シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第38シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第39シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第40シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第41シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第42シリーズ	－	－	－	－	－	－	－

■サブファンドB　円建てクラス

シリーズ	2011年 12月31日	2012年 12月31日	2013年 12月31日	2014年 12月31日	2015年 12月31日	2016年 12月31日	2017年 12月31日
当初シリーズ	100.49	101.21	94.88	116.80	98.67	80.10	103.35
第２シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第３シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第４シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第５シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第６シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第７シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第８シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第９シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第10シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第11シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第12シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第13シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第14シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第15シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第16シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第17シリーズ	81.41	－	－	－	－	－	－
第18シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第19シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第20シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第21シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第22シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第23シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第24シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第25シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第26シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第27シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第28シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第29シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第30シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第31シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第32シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第33シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第34シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第35シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第36シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第37シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第38シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第39シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第40シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第41シリーズ	－	－	－	－	－	－	－
第42シリーズ	－	－	－	－	－	－	－

（注１）１口当たりの純資産価額は、小数点以下第２位まで計算されています。
（注２）第２シリーズから第９シリーズまでの各シリーズは、2010年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注３）第10シリーズから第16シリーズまでの各シリーズは、2011年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注４）第17シリーズから第23シリーズまでの各シリーズは、2012年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注５）第24シリーズから第30シリーズまでの各シリーズは、2013年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注６）第31シリーズから第37シリーズまでの各シリーズは、2014年12月１日より当初シリーズに統合されました。

（注７）第38シリーズから第42シリーズまでの各シリーズは、2015年12月１日より当初シリーズに統合されました。
（注８）第43シリーズから第60シリーズまでの各シリーズは発行されなかったため、上表においても省略されています。

サブファンド・グリーンA、グリーンB、グリーンCの純資産総額及び１口当たり純資産価額の推移は以下のとおりです。

■サブファンド・グリーン A

		純資産総額 （円）	１口当たりの純資産価額 （円）
円・クラス	2018年12月	80,931,474	49.80
	2019年12月	75,629,296	54.87
	2020年12月	67,627,407	52.48
米ドル・クラス		純資産総額 （米ドル）	１口当たりの純資産価額 （米ドル）
	2018年12月	152,976.55	0.53
	2020年12月	155,073.24	0.59
	2019年12月	109,852.69	0.59
ゴールド円・クラス		純資産総額 （円）	１口当たりの純資産価額 （円）
	2018年12月	165,452,108	72.07
	2019年12月	200,844,175	91.60
	2020年12月	201,599,415	102.98

■サブファンド・グリーン B

		純資産総額 （円）	１口当たりの純資産価額 （円）
円・クラス	2018年12月	571,375,492	58.31
	2019年12月	649,761,961	70.59
	2020年12月	590,598,795	71.56
米ドル・クラス		純資産総額 （米ドル）	１口当たりの純資産価額 （米ドル）
	2018年12月	2,028,793.62	0.74
	2019年12月	1,917,820.80	0.90
	2020年12月	1,759,940.16	0.96
ゴールド円・クラス		純資産総額 （円）	１口当たりの純資産価額 （円）
	2018年12月	339,227,272	74.42
	2019年12月	431,665,715	102.38
	2020年12月	1,057,956,161	118.95
ゴールド米ドル・クラス		純資産総額 （米ドル）	１口当たりの純資産価額 （米ドル）
	2018年12月	74,863.60	0.70
	2019年12月	112,628.46	0.98
	2020年12月	296,303.30	1.20

■サブファンド・グリーンＣ

		純資産総額 （円）	１口当たりの純資産価額 （円）
円・クラス	2018年12月	264,774,602	56.44
	2019年12月	245,467,414	71.63
	2020年12月	235,038,559	72.97
		純資産総額 （米ドル）	１口当たりの純資産価額 （米ドル）
米ドル・クラス	2018年12月	1,317,843.39	0.61
	2019年12月	1,467,651.12	0.78
	2020年12月	1,374,166.26	0.83

（注１）１口当たりの純資産価額は、小数点以下第２位まで計算されています。
（注２）過去の業績は、将来の業績を示し保証するものではありません。
（注３）グリーンAの受益証券は、当該サブファンドの登録受益権者による決議等を経たうえで、2021年１月１日付で償還され、グリーンAの受益者には償還手続きの過程においてグリーンBの該当クラスの受益証券が発行されました。また、同日付でグリーンAは終了し、グリーンBの名称は「グリーン」へと変更されました。そのため、2020年12月31日時点でグリーンAが保有していた純資産はありません。上記は償還直前の最終的な純資産総額と１口当たりの純資産価額を記載しています。

2011年12月31日、2012年12月31日、2013年12月31日、2014年12月31日、2015年12月31日、2016年12月31日、2017年12月31日、2018年12月31日、2019年12月31日及び2020年12月31日に終了した計算期間において、確定した分配金はありません。

３．ファンドの経理状況

当サブファンドが含まれている「スーパーファンド・ジャパン」の経理状況は以下の通りです。なお、マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの財務諸表については、EDINET（金融庁の開示書類閲覧ホームページ http://disclosure.edinet-fsa.go.jp/）に開示された有価証券報告書等（ファンドコード「G07555」）をご覧いただき、ご確認ください。

スーパーファンド・ジャパン－スーパーファンド・グリーンＡジャパン
貸借対照表（清算ベース）

2020年12月31日現在
（単位：日本円）

	注記	
資産		
ファンドへの投資に関する未収金	2(m)	275,735,477
現金		245,576
外貨建て現金（原価： 6,587,605円）		6,318,511
その他資産		439,802
		282,739,366
負債		
未払買戻金		281,339,941
未払金及び未払費用	5,8,10,2(a)	1,399,425
		282,739,366
純資産		－

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＡジャパン
損益計算書（清算ベース）

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

	注記	
収益		
その他の収益		―
		―
費用		
受託会社報酬	9	906,890
代行協会員報酬	8	306,458
事務管理報酬	10	1,790,547
専門家報酬		424,680
管理報酬	5	306,397
償還費用	2(a)	103,250
その他の費用		1,493,220
		5,331,442
正味投資損失		(5,331,442)
投資及び外貨に係る実現利益及び未実現損失の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		55,950,378
投資及び外貨に係る未実現損失の変動		(28,668,200)
		27,282,178
営業活動から生じた純資産の正味増加額		21,950,736

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＡジャパン
純資産変動計算書（清算ベース）

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

営業活動	
正味投資損失	(5,331,442)
投資及び外貨に係る正味実現利益	55,950,378
投資及び外貨に係る未実現損失の変動	(28,668,200)
	21,950,736
資本取引	
円クラス受益証券の発行	1,200,000
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(226,501,922)
円クラス受益証券の買戻し	(73,300,142)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(16,129,248)
	(314,731,312)
当期純資産減少額	(292,780,576)
期首純資産残高	292,780,576
期末純資産残高	―

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＢジャパン
貸借対照表

2020年12月31日現在
（単位：日本円）

	注記	
資産		
ファンドへの投資（公正価値）		
（原価：1,760,550,613円）	2(c),3,11	1,857,108,582
ファンドへの投資に関する未収金	2(m)	10,699
現金		2,848,833
外貨建て現金（原価：9,479,945円）		8,320,180
その他の資産		1,448,013
		1,869,736,307
負債		
前受申込金		2,890,000
未払買戻金		3,555,097
未払金及び未払費用	5,8,10	2,482,106
		8,927,203
純資産		1,860,809,104

	米ドル	円
ゴールド円クラス受益証券１口当たり純資産：		
発行済8,894,125口に基づく（2020年12月31日現在におけるゴールド円クラスの株式の価値合計：5,418.30オンス（金））	―	118.95
（2020年12月31日現在の金価格：195,256.07円）	0.001オンス（金）	
円クラス受益証券１口当たり純資産：		
発行済8,253,197口に基づく（単位：日本円）	―	71.56
ゴールド米ドル・クラス受益証券１口当たり純資産：		
発行済246,919口に基づく（2020年12月31日現在におけるゴールド米ドル・クラスの株式の価値合計：156.68オンス（金））	1.20	131.71
（2020年12月31日現在の金価格：1,891.10米ドル）	0.001オンス（金）	
米ドル・クラス受益証券１口当たり純資産：		
発行済1,830,146口に基づく（単位：米ドル））	0.96	105.37

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＢジャパン
投資明細書

2020年12月31日現在
（単位：日本円）

銘柄（純資産における%）	償還条件	株式数	原価	公正価値
ファンドへの投資（公正価値）（99.80%）				
マネージドフューチャーズ				
スーパーファンド・グリーン・ゴールド SPC Ｂ：クラスＢジャパン（円）及びクラスＢジャパン（米ドル）（58.38%）	週次	886,684.92	1,036,132,996	1,086,432,779
スーパーファンド・グリーン SPC Ｂ：クラスＢジャパン（円）（41.42%）	週次	792,604.31	724,417,617	770,675,803
ファンドへの合計投資額（公正価値）（99.80%）		円	1,760,550,613	1,857,108,582

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＢジャパン
損益計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

	注記	
収益		
その他の収益		―
		―
費用		
受託会社報酬	9	906,890
代行協会員報酬	8	1,676,029
事務管理報酬	10	1,306,051
専門家報酬		1,828,369
管理報酬	5	1,675,917
支払利息		36,347
その他の費用		5,598,242
		13,027,845
正味投資損失		(13,027,845)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		21,099,380
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		51,395,224
		72,494,604
営業活動から生じた純資産の正味増加額		59,466,759

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＢジャパン
純資産変動計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

営業活動	
正味投資損失	(13,027,845)
投資及び外貨に係る正味実現利益	21,099,380
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	51,395,224
	59,466,759
資本取引	
ゴールド円クラス受益証券の発行	642,900,000
円クラス受益証券の発行	9,700,000
ゴールド米ドル・クラス受益証券の発行	16,975,210
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(58,268,955)
円クラス受益証券の買戻し	(76,130,082)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(31,570,573)
	503,605,600
当期純資産増加額	563,072,359
期首純資産残高	1,297,736,745
期末純資産残高	1,860,809,104
期末純資産の内訳：	
ゴールド円クラス	1,057,978,166
ゴールド米ドル・クラス	30,542,808
円クラス	590,611,929
米ドル・クラス	181,676,201
	1,860,809,104

添付の注記は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＣジャパン
貸借対照表

2020年12月31日現在
（単位：日本円）

	注記	
資産		
マスターファンドへの投資（公正価値）	2(d),3	371,920,013
マスターファンドへの投資に関する未収金	2(n)	342,966
現金		5,231,746
外貨建て現金（原価：9,479,945円）		1,142,791
その他の資産		378,637,516
負債		
未払金及び未払費用	5,8,10	1,104,523
		1,104,523
純資産		377,532,993

	米ドル	円
円クラス受益証券１口当たり純資産：		
発行済3,221,030口に基づく（単位：日本円）	―	72.97
米ドル・クラス受益証券１口当たり純資産：		
発行済1,655,622口に基づく（単位：米ドル）	0.83	91.10

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＣジャパン
損益計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

	注記	
マスターファンドから配分された正味投資損失		
受取利子		1,823,546
費用		(30,168,016)
		(28,344,470)
サブファンドの費用		
代行協会員報酬	8	408,115
受託会社報酬	9	906,890
事務管理報酬	10	1,056,034
専門家報酬		656,019
管理報酬	5	408,059
支払利息		212
その他費用		1,576,718
		5,012,047
正味投資損失		(33,356,517)
サブファンドの外貨に係る実現損失及び未実現利益の変動		
外貨に係る正味実現損失		(434,160)
外貨に係る未実現利益の変動		204,816
		(229,344)
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		44,213,092
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		235,965
		44,449,057
営業活動から生じた純資産の正味増加額		10,863,196

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・グリーンＣジャパン
純資産変動計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

営業活動	
正味投資損失	(33,356,517)
投資及び外貨に係る正味実現利益	43,778,932
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	440,781
	10,863,196
資本取引	
円クラス受益証券の買戻し	(16,393,084)
米ドル・クラス受益証券の買戻し	(21,351,201)
	(37,744,285)
当期純資産減少額	(26,881,089)
期首純資産残高	404,414,082
期末純資産残高	377,532,993
期末純資産の内訳：	
円クラス	235,045,685
米ドル・クラス	142,487,308
	377,532,993

添付の注記並びにスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・マスターの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）
貸借対照表

2020年12月31日現在
（単位：日本円）

	注記	
資産		
マスターファンドへの投資	2(d),3	249,092,772
マスターファンドからの未収金	2(n)	570,848
現金		38,553
外貨建て現金（原価：6,043,826円）		6,222,111
その他資産		1,140,745
		257,065,029
負債		
未払金及び未払費用	5,8,10	1,067,086
		1,067,086
純資産		255,997,943
ゴールド円クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済2,901,484口に基づく		
（単位：日本円）		65.21円
円ヘッジ有クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済1,552,688口に基づく		
（単位：日本円）		43.03円

添付の注記並びにスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）の財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）
損益計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

	注記	
マスターファンドから配分された正味投資損失		
受取利息		997,563
費用		(5,635,367)
		(4,637,804)
サブファンドの収益		
その他の収益		―
		―
サブファンドの費用		
受託会社報酬	9	906,890
代行協会員報酬	8	241,672
事務管理報酬	10	1,065,842
専門家報酬		1,273,741
管理報酬	5	241,619
販売報酬		1,450,177
その他の費用		1,835,501
		7,015,442
正味投資損失		(11,653,246)
サブファンドの外貨に係る実現損失及び未実現損失の変動		
外貨に係る正味実現損失		(126,925)
外貨に係る未実現利益の変動		140,392
		13,467
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動		
投資及び外貨に係る正味実現利益		18,750,805
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		13,147,408
		31,898,213
営業活動から生じた純資産の正味増加額		20,258,434

添付の注記並びにスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）の財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）
純資産変動計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：日本円）

営業活動	
正味投資損失	(11,653,246)
投資及び外貨に係る正味実現利益	18,623,880
投資及び外貨に係る未実現利益の変動	13,287,800
	20,258,434
資本取引	
ゴールド円クラス受益証券の発行	200,000
ゴールド円クラス受益証券の買戻し	(4,365,851)
円ヘッジ有クラス受益証券の買戻し	(12,691,091)
	(16,856,942)
当期純資産増価額	3,401,492
期首純資産残高	252,596,451
期末純資産残高	255,997,943
期末純資産残高の内訳：	
ゴールド円クラス	189,192,422
円ヘッジ有クラス	66,805,521
	255,997,943

添付の注記並びにスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）の財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・レッド・ジャパン
貸借対照表

2020年12月31日現在
（単位：米ドル）

	注記	米ドル	千円
資産			
マスターファンドへの投資	2(d),3	8,265,494	907,221
マスターファンドからの未収金	2(n)	57,449	6,306
現金		41,309	4,534
外貨建て現金（原価：9,372米ドル）		9,492	1,042
その他の資産		11,156	1,224
		8,384,900	920,327
負債			
前受申込金		2,906	319
未払買戻金		55,975	6,144
未払金及び未払費用	5,8,10	18,896	2,074
		77,777	8,537
純資産		8,307,123	911,790

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・レッド・ジャパン
貸借対照表（続き）

2020年12月31日現在
（単位：米ドル）

	米ドル	円
シルバー円クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済1,736,962口に基づく（単位：日本円）	―	75.82
ゴールド円クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済1,883,574口に基づく（単位：日本円）	―	98.26
円クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済1,493,336口に基づく（単位：日本円）	―	89.39
ゴールド米ドル・クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済556,650口に基づく（単位：米ドル）	0.93	102.08
シルバー米ドル・クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済4,530,528口に基づく（単位：米ドル）	0.72	79.03
米ドル・クラス受益証券１口当たり純資産		
発行済222,195口に基づく（単位：米ドル）	0.84	92.20

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・レッド・ジャパン

損益計算書

2020年12月31日に終了した年度

（単位：米ドル）

	注記	米ドル	千円
マスターファンドから配分された正味投資損失			
受取利息		27,442	3,012
費用		(330,145)	(36,237)
		(302,703)	(33,225)
サブファンドの収益			
その他の収益		―	―
		―	―
サブファンドの費用			
受託会社報酬	9	8,500	933
代行協会員報酬	8	7,416	814
事務管理報酬	10	9,990	1,097
専門家報酬		15,435	1,694
管理報酬	5	7,415	814
その他の費用		33,657	3,694
		82,413	9,046
正味投資損失		(385,116)	(42,270)
サブファンドの外貨に係る実現損失及び未実現損失の変動			
外貨に係る正味実現損失		(1,609)	(177)
外貨に係る未実現損失の変動		(494)	(54)
		(2,103)	(231)
マスターファンドから配分された投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動			
投資及び外貨に係る正味実現利益		1,029,558	113,004
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		350,556	38,477
		1,380,114	151,481
営業活動から生じた純資産の正味増加額		992,895	108,980

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパンースーパーファンド・レッド・ジャパン
純資産変動計算書

2020年12月31日に終了した年度
（単位：米ドル）

	注記	米ドル	千円
営業活動			
正味投資損失		(385,116)	(42,270)
投資及び外貨に係る正味実現利益		1,027,949	112,828
投資及び外貨に係る未実現利益の変動		350,062	38,423
		992,895	108,980
資本取引			
シルバー円クラス受益証券の発行		1,914	210
ゴールド円クラス受益証券の発行		6,615	726
ゴールド円クラス受益証券の買戻し		(118,599)	(13,017)
円クラス受益証券の買戻し		(247,812)	(27,200)
		(357,882)	(39,281)
当期純資産増価額		635,013	69,699
期首純資産残高		7,672,110	842,091
期末純資産残高		8,307,123	911,790
期末純資産の内訳：			
シルバー円クラス		1,275,578	140,007
ゴールド円クラス		1,792,544	196,750
円クラス		1,292,851	141,903
ゴールド米ドル・クラス		516,266	56,665
シルバー米ドル・クラス		3,242,394	355,885
米ドル・クラス		187,490	20,579
		8,307,123	911,790

添付の注記及びスーパーファンド・レッド・ワンSPCの財務諸表は、これらの財務諸表の重要な一部である。

スーパーファンド・ジャパン

財務諸表注記
2020年12月31日現在
（単位：日本円及び米ドル）

１．設立及び主な活動

スーパーファンド・ジャパン（以下、「当信託」という。）は、UBSファンド・サービシズ（ケイマン）リミテッド（以下、「退任受託会社」という。）及びスーパーファンド・ジャパン・トレーディング（ケイマン）リミテッド（以下、「管理会社」という。）の間で締結された信託証書（以下、「信託証書」という。）に従ってケイマン諸島の法律に基づいて設立された。当信託は、信託証書に従ってケイマン諸島の信託法に基づいて2009年６月５日に組織され、2009年６月29日にケイマン諸島のミューチュアル・ファンド法セクション４（１）（ｂ）に基づいて登録された。当信託の旧名称はスーパーファンド・グリーン・ゴールド・ジャパンであった。当信託の名称は2018年１月１日にスーパーファンド・ジャパンへ変更された。退任・指名・変更証書に従い、2015年５月８日付でハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッド（以下、「受託会社」という。）が当信託の受託会社に指名された。受託会社の当信託に関する主な営業拠点はケイマン諸島である。

当信託はオープン・エンド型のアンブレラ・ファンドであり、スーパーファンド・グリーンＡジャパン、スーパーファンド・グリーンＢジャパン、スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパン（以下、それぞれ「サブファンド」、及び総称して「サブファンズ」という。）が設定されている。各サブファンドは独立した資産及び負債のプールとして、他のサブファンドと分別して管理されている。

スーパーファンド・グリーンＡジャパンは、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの分別ポートフォリオＡに投資している。

管理会社は当信託の再編を行うことを希望し、2020年12月18日に受託会社は2021年１月１日からこの再編を実施することを決議した。

2021年１月１日付で、スーパーファンド・グリーンＢジャパンの名称は、スーパーファンド・ジャパン・サブファンド・グリーンに変更された。スーパーファンド・ジャパン株式会社（以下、「販売会社」）は、2020年12月31日にサブファンド・スーパーファンド・グリーンＡジャパンから強制的に償還された。2021年１月１日にスーパーファンド・グリーンＡジャパンの受益者はスーパーファンド・グリーンＢジャパンの対応するクラスの口数を獲得した。償還後、スーパーファンド・グリーンＡジャパンは終了される。

スーパーファンド・グリーンＢジャパンは、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC及びスーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの分別ポートフォリオＢに投資している。

スーパーファンド・グリーンＣジャパンは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーンSPC（以下、「グリーン・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオＣに投資している。

スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスターSPC（以下、「グリーン・ゴールド・マスターファンド」という。）のスーパーファンド・グリーン・ゴールド・マスター・分別ポートフォリオに投資している。グリーン・ゴールド・マスターファンドの目的は、テクニカル分析の利用を通じて長期のキャピタル・ゲインを達成することである。グリーン・ゴールド・マスターファンドは、金先物を含む様々な種類の先物契約にその資産を投資しており、金現物にも投資する場合がある。

グリーン・マスターファンド、すなわちスーパーファンド・グリーンSPCは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・グリーン・マスター（以下、「グリーン・アンダーライング・マスターファンド」という。）に投資している。グリーン・アンダーライング・マスターファンドの目的は、株式及び証券市場の動きの影響を受けない投資形態として、平均以上の長期的なキャピタル・ゲインを達成するための投資を投資家に提供することである。グリーン・アンダーライング・マスターファンドは、投資機会及び取引戦略を利用する意向であるため、対象とする先物投資の特性に関する見解を事前に決めているわけではなく、どのような制約も受けることはない。

スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）は、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンドSPC（旧称「スーパーファンド・ブルーSPC」）（以下、「シャープパリティ・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオであるシャープパリティに投資している。

マスターファンドの主な目的は、先物及び／又は先渡契約のレバレッジ取引を通じて資産増加を達成することである。シャープパリティ分別ポートフォリオは主にロングオンリーのリスクパリティ戦略を採用し、この目的を追求する。この戦略は、スーパーファンドにより独自開発されたコンピューターによる完全自動化トレーディングシステムにより運用される。さらに他の戦略も限られた重みづけで合わせて使用される可能性がある。また、これらの戦略は、先物及び／又は先渡契約を空売りする可能性がある。

スーパーファンド・レッド・ジャパンは、「マスター・フィーダー」構造の一部であり、その資産のほぼすべてをケイマン諸島の適用免除会社であるスーパーファンド・レッド・ワンSPC（以下、「レッド・マスターファンド」という。）の分別ポートフォリオＩに投資している。

レッド・マスターファンドの目的は、株式及び証券市場の動きの影響を受けない（実質的には、株式、証券及びオプション市場との相関関係に基づくものではない）投資形態として、平均以上の長期的なキャピタル・ゲインを達成するための投資を投資家に提供することである。分別ポートフォリオＩの投資目的は、特定のソフトウェアを使用したテクニカル分析を行うことにより、長期のキャピタル・ゲインを達成することである。

グリーン・マスターファンド、シャープパリティ・マスターファンド及びレッド・マスターファンドを総称して「マスターファンド」という。グリーン・アンダーライング・マスターファンドは「アンダーライング・マスターファンド」という。

管理会社は、代行協会員契約に従って、スーパーファンド・ジャパン株式会社（以下、「販売会社」という。）を当信託の日本における代行協会員に選任している。代行協会員は１口当たり純資産価額を公表し、日本証券業協会（以下、「JSDA」という。）に財務諸表を提出する責任を有している。当信託の年次監査済財務諸表は、日本における開示義務の一環として有価証券報告書及び有価証券届出

書に含まれており、関東財務局に提出されている。グリーン・マスターファンド、グリーン・アンダーライング・マスターファンド、シャープパリティ・マスターファンド及びレッド・マスターファンドの財務諸表は本報告書に含まれており、当信託の財務諸表と共に読まれるべきである。

２.重要な会計方針

当財務諸表は、米国会計基準審議会（以下、「FASB」という。）の会計基準編纂書（以下、「ASC」という。）に詳述される米国で一般に公正妥当と認められる会計原則（以下、「GAAP」という。）に従って作成されている。当信託はGAAPにおける投資会社に該当するため、FASB ASC 946「金融サービス－投資会社」に規定される投資会社向けの会計・報告指針に従っている。

2020年８月、FASBは、ASC 820に記載されている公正価値測定の開示要件を修正する内容のASU 2018－13を公表した。これにより、非公開企業は、レベル３に分類される投資対象について期首・期末残高調整表を提出する必要がなくなった。その代わりに、公正価値階層のレベル３における該当及び非該当の変更時に加え、レベル３に分類される投資対象の購入時にも開示が必要となった。また、ASUにおけるその他の開示要件の一部についても改訂、修正及び撤廃が行われた。この基準は、2020年12月15日以降に開始するすべての年度を対象とする。当信託は、レベル３の投資対象を保有していないため、当期にこの基準を適用しても、財務諸表に大きな影響はなかった。

当信託が適用した重要な会計方針は以下のとおりである。

（ａ）会計基準

2020年12月18日のスーパーファンド・グリーンＡジャパンの終了決議（注１参照）により、スーパーファンド・グリーンＡジャパンの会計基準が継続企業基準から清算基準に変更され、この日から適用されている。継続企業基準から清算基準への変更により、会計基準変更の前後で経営成績や資産・負債の帳簿価額に重要な差異はなかった。スーパーファンド・グリーンＡジャパンの清算に必要な費用の見積額103,250円は、2020年12月31日時点で未払いとなっており、貸借対照表の未払金及び未払費用に含まれている。

（ｂ）見積りの使用

GAAPに準拠した財務諸表の作成にあたって、経営陣は、財務諸表日現在の資産及び負債の報告金額並びに偶発資産及び負債の開示、並びに当報告期間中の収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を行うことが求められている。実際の結果は、それらの見積りとは異なる可能性がある。

（ｃ）ファンドへの投資（公正価値）

投資ファンドへの投資は、その純資産価額（以下、「NAV」という。）で表示されており、投資ファンドの経営陣により報告される。投資ファンドに適用される契約上の買戻し及び流動性に関する条件に基づいて、スーパーファンド・グリーンＡジャパン又はスーパーファンド・グリーンＢジャパンが保有する投資ファンドにおける持分を売却する際には、当該投資ファンドのNAV報告額のうち該当する金額で、当該投資ファンドと共に取引が行われる。ASU－2015－07により、実務上の簡便法としてNAVを用いて投資対象の公正価値を測定し、これらのすべての投資対象を公正価値の階層に分類するための要件が撤廃された。実務上の簡便法としてNAVを用いて算出された2020年12

月31日現在の資産額は、スーパーファンド・グリーンＡジャパンが０円、スーパーファンド・グリーンＢジャパンが1,857,108,582円であった。

添付の損益計算書において、投資ファンドへの投資に係る正味実現利益及び未実現利益は、スーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンに対して生じた利息、配当、費用、有価証券の取引に係る実現損益及び未実現損益、並びに投資ファンドからの報酬の持分相当額を含めて計上した。評価には不確実性を伴うため、NAVの見積もりは、既存の証券市場が存在した場合に使用されると考えられる価値、又は自己売買により得られる可能性のある価値と異なる場合があり、その差異が大きい可能性がある。

（ｄ）マスターファンドの分別ポートフォリオへの投資

マスターファンドの分別ポートフォリオへの投資は、取引日基準で会計処理されている。投資は当初は原価で測定され、当初認識後は公正価値で測定される。公正価値は、当信託に帰属する純資産（マスターファンドの事務管理会社により報告される。）に基づき決定される。投資に係る実現損益及び未実現損益は、損益計算書に計上される。マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの投資に関する評価方針は、本報告書に含まれているマスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの財務諸表注記に記載されている。

（ｅ）投資収益及び費用

各サブファンドは、期首現在のマスターファンドの分別ポートフォリオの純資産価額に対する持分割合に基づき、マスターファンドの分別ポートフォリオの収益、費用並びに実現損益及び未実現損益の持分相当額を、週次で損益計算書に計上している。また、各サブファンドの収益及び費用についても発生主義で計上している。

（ｆ）１口当たり純資産価額

１口当たり純資産価額（以下、「１口当たりNAV」という。）は、日本円、米ドル及び金の単位オンスで表示されており、特定のクラスに帰属するサブファンドの純資産価額を、計算時における当該クラスの発行済み受益証券口数で除し、金の単位オンスで表示されている受益証券については、さらに評価日におけるロンドンの金１ オンス当たりの午前決め値で除することで計算される。

（ｇ）受取利息及び支払利息

受取利息及び支払利息は発生主義で計上されている。

（ｈ）現金

現金は日本円建て及び外貨建ての要求払いの預金及び利付預金から構成されており、いずれも当初の満期が３ヶ月以内で流動性が高いとみなされている。

（ｉ）外貨

外貨建て又は外貨で会計処理される資産及び負債は、貸借対照表日現在で適用される為替レートで日本円に換算される。外貨建て取引は取引日の為替レートで日本円に換算される。換算によって生じる実現損益及び未実現損益は、損益計算書に含まれる。当信託は投資に係る為替レートの変動

により生じる損益と保有有価証券の市場価格の変動により生じる損益を区別していない。このような変動は、投資及び外貨に係る正味実現損益及び未実現損益に含まれる。

（ｊ）法人税等

ケイマン諸島では、収益又は利益に対して課税されることはなく、当信託は、税制優遇措置法第６条に従って、2059年６月５日までの期間における将来の収益又は利益に関するすべての現地における税金を免除する旨の誓約をケイマン諸島の総督より受け取っている。よって、法人税等に関する引当金はこれらの財務諸表に含まれていない。

当信託は、税務調査が実施された場合に、テクニカル・メリットに基づいて容認される可能性が高い（50%超の確率）不特定のタックス・ポジションについてのみ税務便益を認識している。当信託は、すべての主要な税管轄区域におけるすべての税務調査対象年度について分析を行っている。税務調査対象年度とは、各管轄区域の出訴期限法で定義された税務当局による税務調査の対象となりうる年度である。

経営陣は、当信託のタックス・ポジションを分析した結果、未確定のタックス・ポジションに関して、税務費用に係る負債又は税務便益に係る資産を計上する必要はないと判断した。さらに経営陣は、今後12ヶ月の間に未認識の税務便益の合計額が著しく変化する合理的な可能性のあるタックス・ポジションも存在しないと考えている。

（ｋ）収益及び費用の配分

特定のサブファンドに関連付けることが可能な収益及び費用は、純資産価額の算定において、各サブファンドに配分又は費用計上されている。その他の収益及び費用は、サブファンド間で比例配分されるか、あるいは受託会社の判断により配分されている。

（ｌ）未払買戻金

受益証券保有者又は当信託の選択により買戻される受益証券は、買戻通知が受理され、買戻金額が決定された時点で未払買戻金に分類される。

（ｍ）ファンドへの投資に関する未収金

未収金は、買戻通知で請求する金額が確定した時点で資産に計上される。一般的に、未払金は、その請求の性質に応じて、対象投資ファンドが当該通知を受領した時点又は会計年度の最終日の時点で発生する場合がある。

（ｎ）マスターファンドからの未収金

マスターファンドからの未収金は、マスターファンドが未払いの買戻金額である。

（ｏ）前受申込金

前受申込金は申込みの通知を受理し、申込金額を受領した時点で計上されている。

（ｐ）公正価値による投資の評価 － 定義及び階層

USGAAPは公正価値の階層を規定しており、公正価値を測定する際に用いられる評価手法への入力

データの優先順位を、以下に説明される３つのレベルに分類している。

レベル１：　活発な市場における同一資産又は負債について経営陣が入手可能な未調整の相場価格に基づく評価。レベル１の有価証券に対しては、評価調整及び大量保有による割引価値の利用は適用されない。評価は活発な市場において容易にかつ定期的に入手可能な相場価格に基づいているため、当該レベルに分類される有価証券の評価については重要な判断は必要とされない。

レベル２：　活発でない市場における相場価格、あるいは重要なデータがすべて直接又は間接的に観察可能な価格に基づく評価。

レベル３：　公正価値測定の全体に対して重要であるが観察不能なデータに基づく評価。

マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドが保有する投資の公正価値の階層については、本報告書に含まれているそれぞれの財務諸表の注記に開示されている。

３．金融商品

市場リスク、信用リスク及び流動性リスク

スーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパン

通常の事業の過程において、スーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンは、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクを招く可能性のある様々な金融商品を売買しており、そのリスクの金額は、財務諸表からは明白ではない。

市場リスクとは、金利、為替レート又は株式及びコモディティ価格の変動が、投資対象ファンド、結果的にスーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンが保有しているポジションに影響を及ぼすリスクである。スーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンは、これらのファンドが保有している投資対象を通じて、市場価格で評価されている金融商品に関して市場リスクにさらされている。

信用リスクとは、契約相手が債務不履行に陥るリスクである。信用リスクは、通常、取引所外で金融商品の取引を行う場合に高くなる。これは、取引所外で取引される金融商品の契約相手は、取引所清算機関の履行保証を受けていないためである。

流動性リスクとは、スーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンが目的を達成するために行う資金調達において困難が生じるリスクである。流動性リスクは、公正価値に近い金額で投資対象を速やかに売却できなかったことにより生じる場合がある。管理会社は、ファンドへの投資に際して、その株式又は受益証券を合理的な期間内に買い戻すための機会を提供するファンドを選んで投資することを目指すものの、買戻しが請求された際に、常に、その請求どおりに買戻し処理を行うのに十分なほど当該投資ファンドの投資対象が流動的であるとの保証はない。流動性が不足すると、受益証券の流動性及び投資価値に影響を及ぼす場合がある。

スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパン

スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンのマスターファンド

への投資は、これらを通じて間接的に、マスターファンドの投資対象である金融商品及び市場に関連する多様なリスクにさらされている。

スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンがさらされている金融リスクの種類は、市場リスク、信用リスク及び流動性リスクである。スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンがさらされている金融リスクに関しては、マスターファンドの財務諸表を参照のこと。

マスターファンドが保有する投資に関する詳細（投資を公正価値で測定する際に用いられる市場価格の観察可能性のレベルに関する内訳を含む。）については、本報告書に含まれているマスターファンドの財務諸表の注記２に開示されている。

４．受益証券保有者資本

	口数
スーパーファンド・グリーンＡジャパン	
ゴールド円クラス：	
期首残高	2,192,622
期中の買戻し	(2,192,622)
	－
スーパーファンド・グリーンＡジャパン	
円クラス：	
期首残高	1,370,779
期中の発行	21,683
期中の買戻し	(1,392,462)
	－
スーパーファンド・グリーンＡジャパン	
米ドル・クラス：	
期首残高	262,836
期中の買戻し	(262,836)
	－
スーパーファンド・グリーンＢジャパン	
ゴールド円クラス：	
期首残高	4,216,309
期中の発行	5,146,930
期中の買戻し	(469,114)
	8,894,125

	口数
スーパーファンド・グリーンＢジャパン	
円クラス：	
期首残高	9,139,148
期中の発行	131,268
期中の買戻し	(1,017,219)
	8,253,197
スーパーファンド・グリーンＢジャパン	
ゴールド米ドル・クラス：	
期首残高	114,927
期中の発行	131,992
	246,919
スーパーファンド・グリーンＢジャパン	
米ドル・クラス：	
期首残高	2,130,912
期中の買戻し	(300,766)
	1,830,146
スーパーファンド・グリーンＣジャパン	
円クラス：	
期首残高	3,426,880
期中の買戻し	(205,850)
	3,221,030
スーパーファンド・グリーンＣジャパン	
米ドル・クラス：	
期首残高	1,881,604
期中の買戻し	(225,982)
	1,655,622
スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）	
ゴールド円クラス：	
期首残高	2,969,961
期中の発行	3,483
期中の買戻し	(71,960)
	2,901,484

	口数
スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）	
円ヘッジ有クラス：	
期首残高	1,855,960
期中の買戻し	(303,272)
	1,552,688
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
シルバー円クラス：	
期首残高	1,733,829
期中の発行	3,133
	1,736,962
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
ゴールド円クラス：	
期首残高	2,004,242
期中の発行	7,628
期中の買戻し	(128,296)
	1,883,574
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
円クラス：	
期首残高	1,788,773
期中の買戻し	(295,437)
	1,493,336
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
ゴールド米ドル・クラス：	
期首残高	556,650
	556,650
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
シルバー米ドル・クラス：	
期首残高	4,530,528
	4,530,528

	口数
スーパーファンド・レッド・ジャパン	
米ドル・クラス：	
期首残高	222,195
	222,195

各サブファンドには、最低申込単位が設定されている。スーパーファンド・グリーンＡジャパン、スーパーファンド・グリーンＢジャパン、スーパーファンド・レッド・ジャパン及びスーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）は、5,000口以上で100口ごとに申込みが可能で、スーパーファンド・グリーンＣジャパンは、100,000口以上で100口ごとに申込みが可能である。販売会社は、管理会社と協議のうえ、特定の申込みについてはこれらの条件の全体又は一部を免除することができる。

信託証書に記載されている場合を除き、すべての受益証券は平等であり、ほぼ同等の権利及び条件を有している。

受益証券の申込みには申込手数料が適用される。特定の投資家の申込みに適用される申込手数料は、当該投資家による各シリーズの申込総額（以下、「購入金額」という。）に基づき決定される。各申込みに適用される申込手数料は、購入金額に5.4%（税抜きでは５%）を上限とする料率を乗じた金額である。

受益証券保有者は、通常、当信託の販売会社に書面による事前の通知を提示することにより、毎月最終日付ですべて又は一部の受益証券の買戻しを要求することができる。当該買戻しは、該当月の最終日に決定される受益証券１口当たり純資産価額で行われる。

当初申込みから12ヶ月以内に買戻請求が行われるか、あるいは当信託による強制的な買戻しが行われる場合、管理会社の単独の裁量により、当信託から受益証券保有者に対して、買戻価格の２%の買戻手数料が請求される可能性がある。当該買戻手数料の請求は当信託の利益のために行われる。

管理会社の単独の裁量により認められる場合を除き、受益証券保有者は、いかなる状況においても、買戻後の保有残高が各シリーズにおける最低当初投資額を下回るような一部買戻しを請求することはできない。

５．管理報酬

当信託の投資活動は、共通支配下に置かれている関連当事者である管理会社により管理されている。投資顧問契約に基づいて、管理会社は、各サブファンドの純資産価額の0.1%（年率）相当の月次管理報酬を後払いで受領している。

2020年12月31日現在の未払金及び未払費用に含まれている未払管理報酬は、スーパーファンド・グリーンＡジャパンが71,385円、スーパーファンド・グリーンＢジャパンが449,864円、スーパーファンド・グリーンＣジャパンが92,513円、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）が62,850円、スーパーファンド・レッド・ジャパンが1,945米ドルである。

６．成功報酬

各サブファンドのレベルで支払われる成功報酬はない。マスターファンドが支払う成功報酬につい

ては、本報告書に添付されているマスターファンドの財務諸表注記に開示されている。

７．販売会社報酬

関連会社であるスーパーファンド・ジャパン株式会社（「販売会社」）はサブファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）の販売会社として、サブファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）純資産価額の0.6%（年率）相当の報酬を毎月受領する権利を有している。

2020年12月31日現在、未払金及び未払費用に含まれている未払販売会社報酬は、サブファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）の128,963円であり、そのほかのサブファンドについては未払販売会社報酬はない。その他のサブファンドにつきマスターファンドが支払う販売会社報酬については、本報告書に添付されているマスターファンドの財務諸表注記に開示されている。

８.代行協会員報酬

代行協会員は、各サブファンドの純資産価額の0.1%（年率）相当の報酬を受領する権利を有している。

2020年12月31日現在、未払金及び未払費用に含まれている未払代行協会員報酬は、スーパーファンド・グリーンＡジャパンが23,794円、スーパーファンド・グリーンＢジャパンが155,300円、スーパーファンド・グリーンＣジャパンが31,489円、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）が21,490円、スーパーファンド・レッド・ジャパンが690米ドルである。

９．受託会社報酬

2015年５月８日付で、ハーニーズ・フィデューシャリー（ケイマン）リミテッド（以下、「受託会社」という。）が、当信託の受託会社となった。

信託証書に規定されたとおり、当信託は、各サブファンドにつき年間8,500米ドルの報酬を受託会社に支払うことに合意している。

2020年12月31日に終了した年度において、サブファンドであるスーパーファンド・グリーンＡジャパン、スーパーファンド・グリーンＢジャパン、スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンに対する未払受託会社報酬はない。

10．事務管理報酬

事務管理契約に基づいて、当信託はエイペックス・ファンド・サービシーズ・エス・エー（以下、「当管理会社」という。）に対し、毎月最終評価日において計算された報酬を後払いで支払っており、その金額はスーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンが年間12,241米ドル、スーパーファンド・グリーンＣジャパンが年間9,898米ドル、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）及びスーパーファンド・レッド・ジャパンが年間9,990米ドルである。

2020年12月31日現在の未払金及び未払費用に含まれている未払事務管理報酬は、スーパーファン

ド・グリーンＡジャパンが589,822円、スーパーファンド・グリーンＢジャパンが105,325円、スーパーファンド・グリーンＣジャパンが85,168円、スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）が85,957円、スーパーファンド・レッド・ジャパンが833米ドルである。

11. 関連当事者間取引

管理会社及び販売会社は、共通支配下に置かれている関連当事者である。管理会社及び販売会社に支払われる報酬は、独立第三者間条件に基づく交渉により設定されたものではない。

当信託は、スーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンを通じて、スーパーファンドの投資会社グループの一部である対象ファンドへの投資を実行した。管理会社の取締役であるテニソン・ブリッグス(Tennyson Briggs)及びヨセフ・ホルツァー(Josef Holzer)が、これらの対象ファンドの取締役も務めている。2020年12月31日現在、これらの対象ファンドが保有するスーパーファンド・グリーンＡジャパン及びスーパーファンド・グリーンＢジャパンの純資産の公正価値は、それぞれの純資産において０％を占める０円、及び99.80%を占める1,857,108,582円である。期中において、その他のスーパーファンドの関連投資会社の売却に係る実現利益は、スーパーファンド・グリーンＡジャパンが56,084,866円、スーパーファンド・グリーンＢジャパンが20,696,425円であった。

12. 公正価値

2020年12月31日現在、経営陣は、各クラスの金融商品の公正価値を見積るために以下の手法及び仮定を使用した。現金、外貨建て現金、ファンドへの投資に関する未収金、マスターファンドからの未収金、その他の資産、未払買戻金、前受申込金並びに未払金及び未払費用を含む当信託の特定の金融商品に関しては、これらの金融商品が直ちに期日を迎える又は短期的な性質のものであるため、帳簿価額は公正価値に近似している。

公正価値の見積りは、市況及び金融商品に関する情報に基づいて、特定の時点に行われる。これらの見積りは本来主観的なものであり、不確定要因及び重要な判断を伴うため、正確に行えるものではない。仮定の変更により、見積りに重要な影響を及ぼす可能性がある。マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドが保有する投資の公正価値測定の分類に関する情報については、マスターファンド及びアンダーライング・マスターファンドの財務諸表を参照のこと。

スーパーファンド・ジャパン
財務諸表注記（続き）
2020年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13. 財務ハイライト

スーパーファンド・グリーンＡジャパン **１株当たりの業績（期中発行済み受益証券１口に関して）**[1]	**ゴールド円クラス** （円）	**円クラス** （円）	**米ドルクラス** （米ドル）
期首受益証券１口当たりの純資産価額	91.60	54.87	0.59
投資活動による収入			
正味投資損失	(1.83)	(0.97)	(0.01)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益／（損失）の変動	13.21	(1.42)	0.01
投資活動による利益／（損失）合計	11.38	(2.39)	0.00
期末受益証券１口当たり純資産価額[3]	102.98	52.48	0.59
総利回り/損失[2]	12.42 %	(4.36)%	0.00 %
補足情報：			
平均純資産比率			
営業費用及びその他費用	(1.74)%	(1.74)%	(1.70)%
正味投資損失	(1.74)%	(1.74)%	(1.70)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。
（３）最終償還の直前の最後の１口当たり純資産価額を表している。

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・グリーンＢジャパン **１株当たりの業績（期中発行済み受益証券１口に関して）**[1]	**ゴールド円クラス** （円）	**円クラス** （円）
期首受益証券１口当たりの純資産価額	102.38	70.59
投資活動による収入		
正味投資損失	(0.96)	(0.57)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動	17.53	1.54
投資活動による利益合計	16.57	0.97
期末受益証券１口当たり純資産価額	118.95	71.56
総利回り[2]	16.18 %	1.37 %
補足情報：		
平均純資産比率		
営業費用及びその他費用	(0.79)%	(0.77)%
正味投資損失	(0.79)%	(0.77)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

13. 財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・グリーンＢジャパン（続き） **１株当たりの業績（期中発行済み受益証券に関して）**[1]	**ゴールド米ドルクラス** （米ドル）	**米ドルクラス** （米ドル）
期首受益証券１口当たり純資産価額	0.98	0.90
投資活動による収入		
正味投資損失	(0.01)	(0.01)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動	0.23	0.07
投資活動による利益合計	0.22	0.06
期末受益証券１口当たり純資産価額	1.20	0.96
総利回り[2]	22.45 %	6.67 %
補足情報：		
平均純資産比率		
営業費用及びその他費用	(0.73)%	(0.77)%
正味投資損失	(0.73)%	(0.77)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン
財務諸表注記（続き）
2020年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13.財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・グリーンＣジャパン **１株当たりの業績（期中発行済み受益証券１口に関して）**[1]	**円クラス** （円）	**米ドルクラス** （米ドル）
期首受益証券１口当たり純資産価額	71.63	0.78
投資活動による収入		
正味投資損失	(6.22)	(0.07)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益の変動	7.56	0.12
投資活動による利益合計	1.34	0.05
期末受益証券１口当たり純資産価額	72.97	0.83
総利回り[2]	1.87 %	6.41 %
補足情報：		
平均純資産比率		
営業費用及びその他費用	(8.65)%	(8.58)%
正味投資損失	(8.15)%	(8.09)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン
財務諸表注記（続き）
2020年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13.財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・シャープパリティ（旧称「スーパーファンド・ブルー・ジャパン」）	**ゴールド円クラス**	**円ヘッジ有クラス**
１株当たりの業績（期中発行済み受益証券１口に関して）[1]	（円）	（円）
期首受益証券１口当たり純資産価額	59.01	41.66
投資活動による収入		
正味投資損失	(2.89)	(1.93)
投資及び外貨に係る正味実現損失及び未実現損失の変動	9.09	3.30
投資活動による損失合計	6.20	1.37
期末受益証券１口当たり純資産価額	65.21	43.03
総利回り[2]	10.51 %	3.29 %
補足情報：		
平均純資産比率		
営業費用及びその他費用	(5.23)%	(5.23)%
正味投資損失	(4.82)%	(4.82)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン
財務諸表注記（続き）
2020年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13.財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・レッド・ジャパン **１株当たりの業績（期中発行済み受益証券１口に関して）**[1]	**シルバー円クラス** （円）	**ゴールド円クラス** （円）	**円クラス** （円）
期首受益証券１口当たり純資産価額	62.56	95.34	102.63
投資活動による収入			
正味投資損失	(3.21)	(5.05)	(4.72)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益／（損失）の変動	16.47	7.97	(8.52)
投資活動による利益／（損失）合計	13.26	2.92	(13.24)
期末受益証券１口当たり純資産価額	75.82	98.26	89.39
総利回り[2]	21.20 %	3.06 %	(12.90)%
補足情報：			
平均純資産比率			
営業費用及びその他費用	(5.56)%	(5.63)%	(5.49)%
正味投資損失	(5.19)%	(5.25)%	(5.12)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

スーパーファンド・ジャパン
財務諸表注記（続き）
2020年12月31日現在（単位：日本円及び米ドル）

13.財務ハイライト（続き）

スーパーファンド・レッド・ジャパン（続き） **１株当たりの業績（期中発行済み受益証券１口に関して）**[1]	**ゴールド米ドルクラス** （米ドル）	**シルバー米ドルクラス** （米ドル）	**米ドルクラス** （米ドル）
期首受益証券１口当たり純資産価額	0.86	0.56	0.92
投資活動による収入			
正味投資損失	(0.05)	(0.03)	(0.04)
投資及び外貨に係る正味実現及び未実現利益／（損失）の変動	0.12	0.19	(0.04)
投資活動による利益／（損失）合計	0.07	0.16	(0.08)
期末受益証券１口当たり純資産価額	0.93	0.72	0.84
総利回り[2]	8.14 %	28.57 %	(8.70)%
補足情報：			
平均純資産比率			
営業費用及びその他費用	(5.62)%	(5.55)%	(5.58)%
正味投資損失	(5.25)%	(5.18)%	(5.21)%

（１）期中平均発行済み口数に基づく。
（２）各投資家の利回りは、受益証券の申込み及び買戻しの時期により変動する可能性がある。

14.後発事象

これらの財務諸表を作成するにあたり、経営陣は、当該財務諸表の公表が可能となった2021年５月31日までのすべての重要な後発事象を評価し開示した。

2020年12月31日より後に、スーパーファンド・グリーンＢジャパンとスーパーファンド・レッド・ジャパンにそれぞれ27,605,014円と204,126米ドルの申込が処理され、そのうちスーパーファンド・グリーンＢジャパンには2,890,000円が前払いされた。スーパーファンド・グリーンＢジャパン、スーパーファンド・グリーンＣジャパン、スーパーファンド・レッド・ジャパン及びスーパーファンド・シャープパリティから、それぞれ約135,574,370円、約38,403,765円、約79,780米ドル及び約6,927,340円の買戻金が支払われ、そのうちそれぞれ3,555,097円、０円、55,975米ドル及び０円が期末日現在において未払いとなっていた。

2020年12月18日に可決された再編決議に基づき、2020年12月31日にスーパーファンド・グリーンＡジャパンから281,339,941円の償還が行われ、2021年１月１日にスーパーファンド・グリーンＢジャパンの申込がされた。281,339,941円は、2020年12月31日にスーパーファンド・グリーンＡジャパンの貸借対照表において未払買戻金として認識された。当信託の再編に関する詳細は、注記１を参照されたい。

４．費用の明細

（2020年１月１日～2020年12月31日）

項目		比率又は金額	項目の概要
管理報酬		各サブファンドの純資産価額の年率0.10%	受託会社、事務管理会社及びカストディアンその他の者との間のやりとり、当サブファンドの活動に関連する契約の管理、申込み及び償還を含む投資活動の運用管理の対価
代行協会員報酬		各サブファンドの純資産価額の年率0.10%	日本の法令及び日本証券業協会の規則に従い、受益者への目論見書や財務書類を送付し、純資産価額を公表する等の業務に対する報酬
受託会社報酬		各サブファンドにつき年間8,500米ドル	信託証書に従って行う当サブファンドの受託業務に対する報酬
事務管理会社報酬	当サブファンドの事務管理及び振替代行報酬	グリーンAにつき年間12,000米ドル グリーンBにつき年間12,000米ドル グリーンCにつき年間9,800米ドル	各評価日における純資産価額の計算、受益権者名簿の管理、締結された申込みに係る契約及び申込みの受領並びに処理、電磁的方法による受益証券の発行証明及び保有報告書の作成並びに送付などの役務の対価
	年次報告書及び監査手配報酬	各サブファンドにつき年間400米ドル	関連する規制に則した年次財務諸表（監査済み）の作成及びその補助の対価
	主たる事務所の提供報酬	「スーパーファンド・ジャパン」につき年間6,000米ドル	当サブファンドの主たる事務所を提供することの対価。事務管理会社の関連会社に支払われる。
その他の費用（当期）		0.47%	監査費用、保管費用、その他信託事務の処理に要する諸費用

（注１）各報酬については、目論見書に定められている料率又は金額を記しています。「その他の費用（当期）」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額を当サブファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

（注２）各項目の費用は、サブファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

５．当期末における純資産額計算書

（2020年12月31日現在）

サブファンド・グリーンA	Ⅰ　資産総額（円）	282,739,366
	Ⅱ　負債総額（円）	282,739,366
	Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）（円）	0
	Ⅳ　発行済数量	0
	Ⅴ　１単位当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）（円）	0
サブファンド・グリーンB	Ⅰ　資産総額（円）	1,869,736,307
	Ⅱ　負債総額（円）	8,927,203
	Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）（円）	1,860,809,104
	Ⅳ　発行済数量	19,224,387
	Ⅴ　１単位当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）（円）	96.79
サブファンド・グリーンC	Ⅰ　資産総額（円）	378,637,516
	Ⅱ　負債総額（円）	1,104,523
	Ⅲ　純資産総額（Ⅰ－Ⅱ）（円）	377,532,993
	Ⅳ　発行済数量	4,876,652
	Ⅴ　１単位当たり純資産価額（Ⅲ／Ⅳ）（円）	77.42

（注）グリーンＡの受益証券は、当該サブファンドの登録受益権者による決議等を経たうえで、2021年１月１日付で償還され、グリーンＡの受益者には償還手続きの過程においてグリーンＢの該当クラスの受益証券が発行されました。また、同日付でグリーンＡは終了し、グリーンＢの名称は「グリーン」へと変更されました。そのため、2020年12月31日時点でグリーンＡが保有していた純資産はありません。

６．投資の対象とする有価証券及びその他の資産

（2020年12月31日現在）

	資産の種類	国　名	時価合計 円	投資比率
グリーンB	スーパーファンド・グリーン・ゴールドSPCの株式（クラスBジャパン（円）及びクラスBジャパン（米ドル）株式）	ケイマン諸島	1,086,432,779	58.38%
	スーパーファンド・グリーンSPCの株式（クラスBジャパン（円）株式）	ケイマン諸島	770,675,803	41.42%
	現金、受取債権及びその他の資産（負債控除後）	該当なし	3,700,522	0.20%
	純資産総額		1,860,809,104	100.00%
	資産の種類	国　名	時価合計 円	投資比率
グリーンC	スーパーファンド・グリーンSPCの株式（クラスCジャパン（円）株式）	ケイマン諸島	371,920,013	98.51%
	現金、受取債権及びその他の資産（負債控除後）	該当なし	5,612,980	1.49%
	純資産総額		377,532,993	100.00%

（注１）グリーンＡの受益証券は、当該サブファンドの登録受益権者による決議等を経たうえで、2021年１月１日付で償還され、グリーンＡの受益者には償還手続きの過程においてグリーンＢの該当クラスの受益証券が発行されました。また、同日付でグリーンＡは終了し、グリーンＢの名称は「グリーン」へと変更されました。そのため、2020年12月31日時点でグリーンＡが保有していた銘柄はなく、純資産もありません。

（注２）グリーンＢの組入比率は、各クラスが各々対応するマスターファンドに高位に投資しておりますが、クラス毎の計算書類は存在しないため、それぞれのサブファンドの財務書類の記載に基づき記載しています。

７．投資の対象とする不動産、金銭債権及び手形

該当ありません。

８．お知らせ

サブファンド「グリーンＡ」の受益証券は、当該サブファンドの登録受益権者による決議等を経たうえで、2021年１月１日付で償還され、サブファンド「グリーンＡ」の受益者には償還手続きの過程においてサブファンド「グリーンＢ」の該当クラスの受益証券が発行されました。また、同日付でサブファンド「グリーンＡ」は終了し、サブファンド「グリーンＢ」の名称はサブファンド「グリーン」へと変更されました。

以　上